

日本科学者会議 京都支部ニュース 3月号 No.373

2015年3月11日発行

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町 95-3 南館 3 階

Tel/Fax : 075-256-3132

E-mail : jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL : <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/>

ゆうちょ銀行振替口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：01050-6-18166

ゆうちょ銀行総合口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：14480-2800181

上記総合口座を他金融機関からの会費振り込みの受取口座として利用される場合は以下の内容を指定して下さい。

店名：四四八（読み ヨンヨンハチ）、店番：448、預金種目：普通預金、口座番号：0280018

目次

- ◆ 原発ゼロをめざす J S A 京都支部講演会 (3/15) のご案内 2
- 関西技術者研究者懇談会 2 月例会 (2/8) 報告「原発事故被害予想報告書」 2
- 『日本の科学者』読書会 2 月例会 (2/20) 報告「有明海・諫早湾」 3
- 原発ゼロをめざす左京の会学習会 (2/28) 報告「原発事故の避難計画」 5
- パイパイ原発 3.7 きょうと (3/7) 報告 5
- 3～4 月の支部関連行事の案内 6
 - ・ 原発ゼロをめざす科学者会議講演会 (3/15)
 - ・ 『日本の科学者』読書会 3 月例会 (3/20) 3 月号特集「女性が活躍できる社会」
 - ・ 京都脱原発弁護団・原告団学習会 (3/29) 「地層処分」
 - ・ 第 10 回自然科学懇談会 (4/4) 「モンゴルの遊牧と草原利用」
 - ・ 関西技術者研究者懇談会 4 月例会 (4/12) 「火山と原発」
- ★ 寄稿：女性会員のみなさまのご参集を（清水民子） 7
- ★ 寄稿：「首相の言動を批判することはテロリスト集団を擁護することだ」
などという言説を振りまくファシストたち（須田 稔） 8
- ★ 寄稿：ごまかし「安全審査」とごまかし「安全協定」（宗川吉汪） 9
- ◆ 支部幹事会・事務局だより 11
- ◆ JSA 近畿地区の催し物案内：「JSA 近畿 No.75.30」 12

年度末が近づきました。会費未納者は至急に納入願います！

今年度も残り 2 ヶ月となりました。会費が 100% 納入されてなんとか黒字となるかならないかというギリギリの状況です。未納者には振込用紙を同封しました。よろしく願いいたします。
(支部財政担当幹事)

原発ゼロをめざす JSA 京都支部講演会（3/15）のご案内

- ・日時：2015 年 3 月 15 日（日）13：00～17：00
- ・場所：龍谷大学深草学舎 2 号館 201 教室（下図参照）
地下鉄「くいな橋」or 京阪「深草」or JR 奈良線「稲荷」から「正門」を経て 2 号館へ
- ・テーマ：「原発ゼロをめざす科学者運動の課題」
- ・講演者と演題（1 人質問を含めて 20 分）
加藤利三氏「原発過酷事故と人的対応：吉田調書から読み取るもの」
鈴木博之氏「原発における活断層と地震動の過小評価」
古儀君男氏「カルデラ噴火と原発」
市川章人氏「原発事故避難計画」
富田道男氏「廃炉問題」
小林芳正氏「人類史における放射性廃棄物」
宗川吉汪氏「福島原発事故と小児甲状腺がん」

<総合討論>

- ・深草学舎マップ
（日曜日は正門のみ開門）



関西技術者研究者懇談会 2 月例会（2/8）の報告

1960 年の原発事故被害予想報告書について

日時：2015 年 2 月 8 日（日） 14:00～17:00
場所：JSA 大阪事務所 参加者：9 名

1960 年の原発事故被害予想報告書について 西山一夫氏

1950 年代後半、当時の日本政府は原発で事故が起きた際に、どれくらいの被害が出るのかを見積もっておく必要が生まれ、科学技術

庁の委託を受け、日本原子力産業会議が原発事故規模の試算を実施した。実際に作成したのは当時の原研で「大型原子炉の事故の理論的可能性及び公衆損害額に関する試算」と題する全文 244 ページの報告書にまとめられた。しかしその一部のみが公開され、全文が公開されたのは 1999 年であった。それまでの経過は「ウイウキペディア」に詳しい。

1979年4月9日付「赤旗」は、この報告書の存在を報道。事故発生を想定した原発は電気出力で約15万キロワットだが、それでも最悪の場合、「被ばくによる死亡者が数百人、放射線障害者が数千人、放射線障害の恐れで要観察者が数百万人になるとし」「当時の国家予算に匹敵する1兆円以上の被害を予測しています」と伝えた。現在この報告書の存在自体はあまり知られてはいないようである。作成した委員の名も公表されていないようだが、放射性物質の拡散に関しては、1960～70年代に公害評価（有害物質の拡散）、コンビナートにおけるガス拡散の評価に使われた「坂上の拡散式」が使われた。当時御茶ノ水女子大学教授坂上治郎氏が参加したことは間違いないと思われる。報告書全体をみれば2011年の東電福島原発事故をあたかも予想していたかのようで、今日の時点での再検討に値するものと思われる。

討論

★福島県での放射線測定装置（定置式）の設置は、3.11事件以前原子力発電所の周辺のみ

で、各自治体での設置も少なかったが今日では、福島全体で数千台になったといわれている。

★福島県二本松市では、市全域を1kmメッシュに区切って（市街地は500mメッシュ）計477地点の放射線観測を2011年以来毎年行っている。

★上記の報告書中の事故想定に現在の「SPEEDI」を適用してみたらどうなるであろうか。

★ビキニの水爆実験では第5福竜丸以外にも、多くの漁船が被曝していたが、その時日本政府が各漁港で測定したデータ等はつい最近「その存在がわかったので」公表した。

これからの日程

3月1日（日） 山本 謙治 氏

「再稼働が料金値上げしかないのかー電気料金の仕組みと原発依存の問題点ー」

（文責・山口進次）

「日本の科学者」読書会2月例会（2/20）の報告 「有明海・諫早湾」で何が起きているのかー ー大規模干拓事業のゆくえー

標記例会が2月20日（金）午後3時より支部事務所で開かれた。参加者は6名であった。今回は、2月号特集「有明海・諫早湾」で何が起きているのかー大規模干拓事業のゆくえより、東幹夫・佐藤慎一「有明海の底生動物の長期定点調査から見えてきたこと」、速水祐一・田井明「有明海の潮汐・潮流の長期変化」、高橋徹「諫早湾調整池における有毒アオコの恒常的大発生と猛毒ミクロシスチ

ン汚染の拡散」、《フロンティア》から松川康夫・佐々木克之「有明海奥部の貧酸素化と諫早湾干拓事業の因果関係」の4論文が取り上げられた。以下に各論文の簡単な要約と感想を述べ報告とする。

東・佐藤論文（内容紹介、菅原建二氏）：諫早湾干拓事業（以下「諫干」と呼ぶ）による潮止めの1997年から2013年まで底生動物の定点定量調査を有明海奥部（毎年1～2回）

と有明海全域（5年ごと3回）で行った。その結果、潮止め以降底生動物が減り続け、2013年には潮止め時の24.7%まで落ち込んだ。しかし、2002年の27日間の短期開門時には一時的に激増した。同様の傾向は全域調査でも認められた。以上の結果は、潮止めが有明海全域で底生動物の生息を大きく阻害すること、開門がその回復に極めて重要であることを示している。

速水・田井論文（鈴木博之氏）：有明海奥部と諫早湾とその周辺海域に分けて潮汐・潮流の長期変化を潮位の長期モニタリングで得られているデータを用いて解析した。その結果、諫干は、諫早湾内から島原半島沿いの潮流を著しく減少させたが、有明海奥部へは大きな影響を及ぼさなかった。有明海の潮汐・潮流は、湾外と同様、2000年代前般には過去80年間で最小になった。この事実が多くの漁業者が実感している潮流の減少と整合しており、水環境に悪影響を及ぼした可能性がある。

松川・佐々木論文（鈴木博之氏）：有明海奥部の貧酸素化と諫干の因果関係を明らかにするため、国の浅海定線調査と佐賀市の7月・8月の雨量データとの同調関係を1973年から2009年にわたり図上で比較し、潮受け堤防の建設時期（1987～1997）以降ズレが認められる場合、諫干の影響を受けたと判定する方法で、溶存酸素、 $\Delta\sigma$ （海底直上と海面との海水密度の差）、溶存無機態チッソ、リン酸態リンを解析した。その結果から以下のような有明海の水質環境劣化が推察された。①諫干により、7月に諫早湾起源の奥部全域の富栄養化と密度成層強化が生じ、7-8月の赤潮発生の効率が上がり、8月の下層の貧酸素化と上層の過酸素化が進んだ。②7月に富栄養化が大幅に進んだのは諫早湾の持つ巨大な水質汚

濁浄化作用を諫干が破壊したことによる。③諫干により、7月の $\Delta\sigma$ が増加した。すなわち、潮流の上下層間の流速差と鉛直混合が減少し、密度躍層が強まった。

高橋論文（宗川吉汪氏）：諫干により1997年に諫早湾奥部を7 kmの潮受け堤防で締め切ることによって形成された3550 haの淡水の調整池には猛毒マイクロシスチンを合成する有毒なアオコが恒常的に大発生する。そのアオコを含んだ水が干潮時に調整池の外の海域に年間4億トン排出される。アオコは海水により死滅するが、マイクロシスチンは低質中に蓄積し、底生生物や魚類に移行・濃縮され、海域を広範囲に汚染している。汚染は、水中で過ごすユスリカの幼虫を通して陸上の生物へも広がる。また、調整池の水で栽培されたコメからも微量の毒素が検出される。アオコの発生を抑えるには調整池への海水の導入以外にはない。

感想：堤防での締め切りによる、諫早湾内・湾口周辺への影響は全論文が認めているが、速水・田井論文は有明海あるいは湾奥部への影響はないか少ないとしている。しかし、松川・佐々木論文や高橋論文が指摘しているように、巨大な水質浄化装置であった諫早湾は堤防での締め切りにより巨大な汚濁発生源に転化し、「蓄積した汚濁物質が7月の多雨と共に一挙に流出する（松川・佐々木）」。汚濁物質は諫早湾口から外の海域に流出し、潮汐の強弱に拘わらず、潮流により湾奥部や全域に拡大する可能性が強い。「締め切り」は有明海全域に影響するとの結論が妥当である。開門など諫早湾の水質浄化能力を回復する方策が早急に取られるべきである。

論文の内容が専門的すぎて理解できない。特に、速水・田井論文は専門家でないと正確

な理解は困難である。専門用語はできるだけ避けるか、やむをえない場合は説明すべきであろう。専門家向けのような論文については

編集委員会が分かりやすく書き直すよう著者に要請すべきであろう。読書会参加者全員が同意見であった。(文責 菅原建二)

原発ゼロをめざす左京の会連続学習会 (2/28) 報告

原発事故後の避難計画 市川章人氏

上記学習会が、2月28日(土)14:00～16:00、民医連第2中央病院西館2F(友の会)(左京区田中飛鳥井町)で開催された。今回は市川章人さんに原発事故後の避難計画について話していただいた。参加者は18名であった。以下、市川さんの話し。

原発事故の際の住民避難計画についての国の指針は被ばく計画ともいうべき内容である。原発から5キロメートルまでをAPZ(予防的防護措置を準備する区域)、5～30キロメートルをUPZ(緊急時防護措置を準備する区域)としている。その根拠は放射性物質の拡散シ

ュミレーションによるが、明らかにはじめから30キロを設定してそれにデータを合わせている。この指針をもとに作成された京都の自治体の避難計画は問題点だけで、実効性に乏しい。実効ある避難計画の立案の超困難性は原発再稼働を否定すべき最大の根拠となる。しかしながら同時に、すでに存在する大量の使用済み核燃料とその事故の可能性から見て、避難計画は不可能であると手を引くだけで済む問題ではない。原子力災害に対する防災のための措置は絶対必要である。

(文責・宗川吉汪)

「バイバイ原発3.7きょうと」報告

福島第一発電所の事故から4年が経つ。「バイバイ原発きょうと」も今年で4回目である。3月7日(土)13:30から円山公園で開催された。生憎の雨の中だが、約2000人が参加した。

円山野外音楽堂のメイン集会の開会にあたり、呼びかけ人を代表して原強さんが挨拶をした。その中で、今回京都府と関電の結んだ再稼働に対する同意権のない「安全協定」を非難した。福島の郡山から避難して来た鈴木絹江さんは、放射能で汚染されたふるさとを返してほしいと切々と訴えた。

「福井から原発を止める裁判の会」の松田正さんは「大飯原発3.4号機・高浜原発3.4号機運転差し止め仮処分の申し立て」について

(
の現状を報告した。画期的な5.21福井判決を出した樋口裁判長が担当しているので大いに期待が持てる、と語った。

京大原子炉実験所の小出裕章さんは「福島原発事故から被害者と加害者が学んだ教訓」と題してスピーチを行った。被害者は二度と原発事故を起こしてはならない、原発はゼロにしなければならない、という教訓を得た。一方、加害者は、どんなに過酷な事故を起こしてもこの国では決して罰せられない、という教訓を引き出した。だから再稼働・輸出に走る。原子力マフィアは罰せられるべきだ。

ダッ!ダッ!脱原発で有名なアイドルグループ「制服向上委員会」が今年も登場し、歌

とパフォーマンスで脱原発の想いを訴えた。

京都市役所までデモ行進した。

最後に、集会決議を行い、引き続いて、雨
の中、脱原発・高浜原発再稼働反対を訴えて、

(文責・宗川吉汪)

3～4 月の支部関連行事の案内 (末尾の JSA 近畿も参照)

1. 原発ゼロをめざす科学者会議講演会

日時：3月15日（日）13：00～17：00

場所：龍谷大学深草学舎2号館201教室

(詳細は本紙2ページ参照)

2. 『日本の科学者』読書会 3 月例会

日時：3月20日（金）13：30～16：00

会場：立命館大学衣笠キャンパス・学而館 2階第2研究会室

(時間と会場が定例とは異なっています。ご注意ください)

『日本の科学者』3月号特集「女性が真に活躍できる社会を目指して」

報告者依頼中：竹信「アベノミクスで女性は働きやすくなるか」

報告者依頼中：戒能「複合的な生活困難の連鎖を断ち切る」

報告者依頼中：長谷川：「若手女性研究者の葛藤」

3. 第11 回幹事会

日時：3月20日（金）18：00～20：00

4. 国際シンポ「移行：原子力から再生可能エネルギーへ」

日時：3月27日（金）～29日（日）

場所：横浜国立大学

(詳細は「日本の科学者」3月号表紙裏を参照)

5. 大飯原発運転差止め訴訟弁護団/原告団の学習会 (参加歓迎)

テーマ：高レベル放射性廃棄物の地層処分は可能か？

日時：3月29日（日）13：30～15：30

場所：京都弁護士会館（京都地裁の東横建物、日曜なので竹屋町通りの通用門から入り会館裏口からの入館となります。）

話題提供：竹本修三氏（原告団長）：地層処分

富田道男氏（原告団世話人）：放射性廃棄物

内容：瑞浪超深地層研究所見学報告と日本学術会議の「暫定保管」「総量管理」など

6. 第11 回事務局会議

日時：4月3日（金）13：30～15：30

7. 『日本の科学者』近畿地区サポーター会議

日時：4月4日（土）13：30～16：30

会場：大阪支部事務所

8. 第10回自然科学懇談会

日時：4月4日（土）13：30～15：30

場所：京大楽友会館

講師：藤田 昇氏（植物生態学，元京大生態学研究センター）

テーマ：モンゴルの牧畜としての遊牧と草原利用

9. 近畿地区会議

日時：4月5日（日）13：30～16：30

会場：大阪支部事務所

10. 関西技術者研究者懇談会4月例会

日時：4月12日（日）14：00～17：00

場所：JSA 大阪事務所

テーマ：古儀君男氏「火山と原発」

寄稿： **女性会員のみなさまのご参集を！**
3月読書会：『日本の科学者』3月号「女性問題特集」
—3月20日（金）13:30より立命館大学・学而館にて— 清水 民子

「日本の科学者」3月号は、「女性が真に活躍できる社会を目指して」と題して特集を組んでいます。支部定例の読書会は、女性会員の多くの出席を期待して、会場を立命館大学（学而館2階第2研究会室）に移し、時間も早めて（13:30 - 16:00）開催いたします。この機会に女性会員のみなさまに多数お集まりいただき、交流の機会ともなることを願っています。

特集論文（*印の論文については報告担当者を予定しています）

・中野貞彦（特集まえがき）：女性が真に活躍できる社会を目指して。

*竹信三恵子：アベノミクスで女性は働きやすくなるか—「家事ハラ」の視点から。著者はピケティの入門書も手がけ、「家事労働ハラスメント～生きづらさの根にあるもの」（岩波文庫）を執筆。

*戒能民江：複合的な生活困難の連鎖を断ち

切る—女性の人権保障をめざして。アカデミック・セクシュアル・ハラスメントの問題を指摘する先頭に立った一人。論文は、DV被害等、暴力被害者と貧困の連鎖を扱っています。

・有沢知子：女性差別撤廃条約の日本とドイツへの影響—暫定的特別措置を中心に。

・脇田滋：蔓延する非正規雇用と女性労働者。

その他掲載論文（*印論文については著者を交えての話し合いとする予定です）

・沢山美果子：（巻頭言）「女性研究者・技術者の今、そしてこれから」—4年間をふりかえる。科学者会議・女性研究者・技術者委員会の活動。

・石渡真理子：（談話室）研究者夫婦の別居に想うこと

・鯨坂 真：（レビュー）安倍政権の女性観

*長谷川千春：（シリーズ ガラスの天井にも挑む（6））若手女性研究者の葛藤—研究

と就職とライフコースの選択。現在、別居で2歳児を育てつつ研究生活に奮闘中。
・衣川清子：(サロン)「アナと雪の女王」—プリンセス・ストーリーからの変容
女性研究者問題の現状と支援策を明らかにするための一歩として

本年6月14日(日)には東京で、第14回女性研究者・技術者全国シンポジウムが開催

される予定です。また、明2016年の総合学術シンポジウムは京都での開催と予定されており、これまでのプログラムを引き継いで「女性研究者・技術者」問題にかかわる分科会の設置が期待されています。京都と近隣地域の諸大学、研究機関の女性研究者の現状や支援策はどうか、情報交流を深めたいと思います。多数のご参集を期待いたします。

寄稿：「首相の言動を批判することはテロリスト集団を擁護することだ」などという言説を振りまくファシストたち 2015. 3. 6. 須田 稔

2月28日付『毎日』の「メディア時評」で京都大学の伊藤公雄教授が『沈黙のらせん』という言葉を使って、異常な状況に警鐘を鳴らしておられる。「メディアの報道が多数派であるような認識を生み出すことで、少数派の声がらせん的に抑制されるプロセス」のことだという。

そして、「報道管制」とまで指摘されるこの状況に対し、ジャーナリストや作家など1200人が9日、「翼賛体制の構築に抗する言論人、報道人、表現者の声明」を出した、と伊藤教授がお書きだ。この声明全文を『毎日』は載せなかったと思う。他紙はどうか。インターネットで「声明」は、「ISIL」と称する組織・集団による卑劣極まりない邦人人質惨殺事件を強く非難し、抗議する」と同時に、「事件発生以来、現政権の施策・行動を批判する事を自粛する空気が国会議員、マスメディアから日本社会までをも支配しつつあることに、重大な危惧を覚えざるを得ない」と表明する。

「人命尊重を第1に考えるなら政権の足を引っ張るような行為はすべきでない」、「こう

いう非常時には国民が一丸となって政権を支えるべき」などの言説が、言論の自由という人権の蹂躪であり、国家権力を監視すべきジャーナリズムの使命を否認する暴論だ。

「危うい『報道管制』的状況」の日本が、「国境なき記者団」の「報道の自由度世界ランキング」では、2010年11位、13年53位、14年61位。前述の伊藤教授によると、『産経』大阪本社版は、自社の前ソウル支局長在宅起訴問題もあってか、韓国の報道自由度が60位に下がったことを報じるだけで日本のことは記事にしなかったらしい。他山の石以て玉を攻むべし、はこの新聞社の社是にはないようだ。

日本機関誌協会京滋地方本部が発行する『宣伝と組織』516号に、ジャーナリスト西谷文和氏へのインタビュー記事がある。

昨年8月中旬に湯川さん拘束を示す動画、17日首相官邸に情報連絡室設置、在ヨルダン日本大使館に現地対策本部設置。10月末に後藤さんが拘束された事を把握、後藤さんの家族に身代金要求のメールがあり、政府も事態を把握。1月16~21日、首相中東訪問。17

日、イスラム国対策で 2 億ドル支援を表明。20 日、イスラム国が二人の殺害を予告。首相、テロには屈しないと声明。政府、1 月 24 日に湯川さん殺害の映像を、2 月 1 日に後藤さん殺害の映像を確認という経過。

西谷氏は、政府の誤りを 2 点指摘する。一つは、ヨルダンに対策本部を設置したこと。ヨルダンは米国筆頭の有志国連合に加盟している。IS が敵視する国なのだ。二つ目は、IS のテロ対策に 2 億ドル支援とは、IS への敵対宣言に等しい。加えて、この支援のことを、イスラームのパレスチナを不法占領し空爆するイスラエルでも表明した。それまでの平和外交は終焉したわけだ。IS は二人の日本人を殺害して日本政府に懲罰を下したつもりだろう。「人命優先」と「2 億ドル支援」は両立しなかったのだ。

田中 宇(さかい)氏の論説は僕を仰天させる。一方で、「イスラエル・軍産複合体・アルカイダ・ISIS」の連合体があり、対して、オバマは「イラン・イラク・シリアのアサド政権・レバノンのヒズボラ」の連合体を強化しようとしている、という。3 月 4 日のメール

の内容だ。ネタニヤフは前者の傀儡色が強い米議会に自分を招待させ 3 月 3 日にオバマ反対の演説を敢行した。オバマとネタニヤフの対立は確かのようだ。

奇々怪々、対立させ戦闘させ、あるいは敵対的武力衝突と見せかけて、その実は真の相互利益を隠蔽する隠れ蓑という超高級詐術は普通の人民には理解を超える。アルカイダは軍産イスラエル・米英諜報機関が育成し、9・11 で「仇敵」に仕立てられたのだが、ISIS も米英やイスラエルの軍部と諜報界が敵として育ててきた観が強い、と田中氏。

踏み込まずにテロを実際に挙行させて「テロ戦争」を誘発強化する策は、昔から米英がよくやっていたことで、9・11 はその例だと田中氏。

イスラエル軍当局も、パレスチナ人を過酷に弾圧して彼らがテロで反撃したくなるような状況を創り、彼らの中にエージェントを潜り込ませてテロを誘発している。米欧イスラエルなどにとって、イスラムテロは、政府の立場を強化する「テロ戦争」をおこなうための政策道具の一つになっている、と田中宇氏。

寄稿：ごまかし「安全審査」とごまかし「安全協定」 宗川吉汪

政府と関西電力は、今すぐにでも高浜原発 3・4 号機を再稼働しようとしている。原子力規制委員会は、今年 2 月 12 日、安全審査で「新規制基準を満たす」として、適合とする「審査書」を決定した。

今回の原子力規制委員会の審査にはいくつものごまかしがある。

実は、高浜原発 3・4 号機には事故の際の対処拠点となる免震棟がない。大きな地震が

きても潰れないような免震棟がなければ事故対処ができない。そこで関電は、いま運転停止中の高浜原発 1・2 号機を緊急時対策所とするとしているが、しかしこれは全く人をバカにした話だ。というのは、関電は 1・2 号機の稼働延長を計画しているからである。一方で免震棟に使うと言って、他方で動かす、と言っている。

今回、関電は基準地震動を従来の 550 ガル

から 700 ガルに引上げた。これまで関電は高浜 3・4 号機は地震の際に 550 ガルの力にも耐えられるとしてきたものを、今回 700 ガルまで大丈夫、と言ってきた。これまた人をバカにした話である。というのは、原子炉の補強などは全くしないで、ただ数字を上げただけだからである。これでは今まで 10 人乗りのエレベーターをワイヤーの補強もなしに 15 人乗りに変えたようなものだ。これでは関電と委員会はグルになってごまかしていると言いか言いようがない。

また、高浜原発ではプルトニウムの入った MOX 燃料を使う危険なプルサーマル運転をすることになっている。しかし、もともと高浜の原子炉はそれように作られていない。石油ストーブにガソリンを入れるようなものだ。原子力規制委員会はこれを審査の対象にしなかった。そしてなにより問題なのは原発が事故を起こした時の住民の避難計画が審査から除外されている。

原子力規制委員会は、高浜 3・4 号機が「規準」に合っているかどうかを審査しただけで、これで「安全」と言ったわけではない、再稼働するかどうかは政府の決めることだと言っている。一方、政府は、規制委員会の審査に合格したのだから「安全」が保障された、これで再稼働の条件は整った、と言っている。こんな論理がまかり通ったら世の中真っ暗闇だ。

ところで、京都府は、2 月 17 日、関西電力と「安全協定」を締結した。しかし、これには再稼働についての同意権もなく、しかも今回の再稼働は対象とされないなど、実効性の乏しい「骨抜き協定」と言わざるを得ない内容になっている。これでは再稼働の条件整備

にしかない。しかも、協定締結を巡る交渉経緯で、府側から同意権を放棄したかのような報道すらされている。

関西広域連合は、昨年 12 月 25 日、国に対し、「原子力防災対策に関する申し入れ」を行った。「実行されないとなれば高浜発電所の再稼働を容認できる環境にはない」とした条件がついていた。現在、これらの条件は何一つ解決していない。関西電力は、「再稼働に必要な地元同意はあくまでも立地の町と県」として、被害地域全域の住民に対する説明すら行おうとしていない。また、避難計画は、いまだ課題山積で、「申し入れ」に言う「実効性のあるもの」とは程遠いのが実態である。政府が避難計画を自治体任せにして、再稼働だけを議論することは、地方自治体の努力にも、国民の願いにも逆行するものと言わざるを得ない。これら関西広域連合の「申し入れ」の立場からも、京都府知事は、再稼働にいますぐ反対を表明すべきだ。

大飯原発 3・4 号機の差し止めを命じた福井地裁は「経済よりも人格権（いのちと暮らし）」「原発は本質的に危険」「地震大国日本に原発はあまりに楽観的」「豊かな国土と暮らしこそが国富」とし、「具体的な危険性があれば運転の差し止めは当然」と述べている。

高浜原発がいったん過酷事故を起こせば、地域や自然、飲み水や暮らし、そして命を放射能被害が直撃する。自治体の避難計画でも舞鶴全市を含む 10 数万人という京都府民が避難対象となっている。府民の安全・安心の確保が京都府を含む地方自治体の責務である。福島第一原発事故を通じて、原発の稼働の下で住民の安全安心は確保できないことが明らかになった今、京都府知事は、一刻も早く再

稼働に反対する表明を行うべきある。

私たちは京都府知事に対して以下のことを要求したい。

1. いまずぐ、高浜原発再稼働に反対する表明をおこなうこと。

2. 関西電力との高浜原発の安全協定について、再稼働についての同意権を確立し、今回の再稼働対象とするよう協定内容を改訂すること。

※※※※※支部幹事会・事務局だより※※※※※

2014年度第10回幹事会（2月20日）および第10回事務局会議（3月6日）の報告

1. 新入会員

3月から尾崎望さんと院生のお二人が新たに入会した。

2. 支部現況

一般会員：243，特別会費会員：1，家族割特別会費会員：3，若手会員：6，
若手特別会費会員：20 合計：273
読者：3，会誌贈呈：1
休会会員：一般1，若手5

3. 会費納入状況（2015年2月28日）

- ・14年度会費未納者：一般（21／243）；一般特別（0／1）；家族割（0／3）
若手（1／6）；若手特別（5／20）
納入金額率：89%；一般会員納入率：91%
- ・13年度会費未納者：一般（2／22）；若手（0／2）；若手特別（2／7）
- ・12年度会費未納者：一般（1／2）；若手特別（0／3）。

4. 会員拡大について

科学者会議の活動に理解を持つ医師・弁護士・高校教員・退職者がまだまだ大勢いる。もちろん大学教員・院生・学生もいる。どんどん声をかけていきましょう。会員を増やすことが安倍政権を追いつめる極めて有効な手段であることに確信をもちましょう。

5. 第49回支部大会日程について

- ・日時：5月17日（日）特別講演（13：00～15：00），大会（15：00～17：00）
- ・会場：キャンパスプラザ龍谷大サテライト
- ・準備の予定：
4月3日，事務局会議で議案書原稿完成
4月11日，支部ニュースに合わせて議案書，幹事の立候補案内，委任状の発送
5月15日，幹事会で委任状回収

6. 支部ニュース2月号発行以後の支部関連行事

- ・2月20日（金）2月読書会@京都支部事務所
- ・2月20日（金）第10回支部幹事会@京都支部事務所
- ・2月24日（火）米軍基地を研究する「基地建設の不法・無法を解明する研究会」
@京都教育会館別館1階会議室
- ・2月28日（土）原発ゼロをめざす左京の会
連続学習会@民医連第2中央病院西館
- ・3月1日（日）関西懇3月例会@大阪支部事務所
- ・3月7日（土）バイバイ原発3.7きょうと@円山公園
- ・3月11日（水）支部ニュース3月号発行と機関誌4月号発送

（文責 宗川吉汪）

